

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0791300080		
法人名	医療法人 掛田中央内科		
事業所名	グループホーム掛田 1ユニット		
所在地	福島県伊達市霊山町掛田字西裏20-1		
自己評価作成日	平成25年10月21日	評価結果市町村受理日	平成26年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成25年12月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

心身機能の重度の方、医療依存の高い方においても、医療面との連携を図り対応させて頂いている。また、生活保護受給者の受け入れも行うことで、地域の拠点として近隣の方々に安心を与えることが出来ている。利用者との関係性を重視し、出来るだけ要望や利用者の過ごしやすい環境や雰囲気を作るように配慮している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 管理者を中心として職員間のコミュニケーションが円滑であり、利用者との信頼関係が得られ、利用者の表情は穏やかで明るく楽しい雰囲気の事業所である。
2. 経営母体の医療法人が近隣にあり、終末期支援についても医療関係者等と連携を図り、職員間で話し合い取り組んでおり、利用者や家族の安心に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の朝礼や会議の際にスタッフ全員で唱和し、職員間で共有を図っている。	事業所独自の理念を全員で作成し、各ユニット運営理念に落とし込み朝礼の際に全職員で確認し合い、実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや催し物に利用者と共に参加したり、事業所へ慰問のボランティアを受け入れられている。また、中学生の福祉体験等の受け入れも行っている。	地域行事(霊山太鼓祭り、敬老会、秋まつり等)に参加し、地域の一員として交流を深めている。また、行事計画書により、ハンドベルの慰問を受け入れたりして地域とのつながりを継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域におけるケアの拠点としての地域貢献は今後の課題である。地域での講習会や勉強会の機会をを計画中である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的を開催しており、地域の催し物や行事の案内等から、利用者参加の機会へと繋げている。	運営推進会議は地域の代表として市議会議員、地域包括支援センター職員、民生委員、家族等で構成され、定期的(2ヶ月に1回計画)に開催している。委員からの意見や提言、検討事項を記述しサービス向上に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護者の受け入れを行っていることから、事業に関わる行政担当者とは電話や相互の訪問にて連携を図っている。	市の担当者には利用者の状況報告・サービスの取り組み状況等を相談したり、事業所の実情を報告している。お互いに情報の共有をして協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の状態に合わせて見守り等を強化し、身体拘束は行っていない。また、玄関も夜間を除き施錠は行っていない。	身体拘束研修会等に参加して会議等で全職員に周知している。全職員が身体拘束によって利用者にも与える弊害を認識しており、拘束のないケアの実践に努めている。また、玄関は日中は施錠しておらず、センサー音、見守りで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が研修に参加し、また、入社時のオリエンテーションの際に説明を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が研修に出ており、今後全体への周知を図っていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や制度の説明等については、質問や疑問を伺う時間を設けながら丁寧に実施出来ている。また、随時の問い合わせへの対応も行っており、理解はして頂いていると思う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族から電話や面会時等に意見や要望を頂いた場合には、すぐに対応を行うようにしている。意見箱の設置も行っている。	日常生活の中で利用者の意見や要望を把握するとともに、家族等の面会時に意見や要望を聴くよう努めている。推進会議で出された意見は会議等で検討し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットリーダーが職員の意見を確認する為のアンケートを実施したり、会議での提案を把握し、運営に反映させている。また、申し送りノートの活用で情報の共有を図っている。	職員の意見や提案等を取り入れる体制となっており、リーダー会議で出された意見等は管理者が受け止め、法人等と話し合い、事業運営やサービス向上に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフから“楽しい”という言葉のでる職場雰囲気を作ることが出来ている。実績や能力は定期の人事考課にて評価を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の機会に出来るだけ参加をしてもらっている。その内容を内部での研修として報告している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修時の横のつながり、ネットワーク作りを推奨している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	全職員が、同じ質のサービスを提供できるよう情報共有しつつ、慣れない環境への配慮が出来るよう、都度本人の意向を確認している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み等のサービス導入前より、家族であるからこそその苦労や思いを聞き取りつつ、入居にあたっての不安等に耳を傾けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談、見学、申し込みの要請があった時点で、対象者とその背景にある実情等の情報を集め、担当ケアマネや他事業所等との連携を、必要に応じ行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その都度、傾聴をしながら、本人の意思表示が出来るよう努め、その関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	担当職員等を通じて、ご家族への連絡を密に行い、足を運んで頂けるよう呼びかけることが出来ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	誕生日には本人の希望で行きたい場所に出掛けたり、家族や知人が来訪時にはくつろいで頂けるように支援している。	職員同伴でなじみの理美容院を利用したり、家族同行で生家を訪問したりするなど、馴染みの人との交流が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の性格等にも配慮して見守りを行いつつ、必要に応じて職員が間に入り関係性を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用の終了がご逝去のため、関係の継続は出来ていないが、葬儀や荷物引取りの際に遺族の話を聴ける機会を設けるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で利用者の言葉に耳を傾け、思いや意向を把握している。把握したものは会議等において共有し、本人本位に検討している。	全職員が利用者の生活歴や思いの情報を把握している。把握が困難な利用者については、訪問時の家族からの聞き取りや利用者の表情や行動から意向を汲み取るようにしている。各ユニット会議においては把握した情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談等での情報収集やセンター方式を利用し、書面や会議において情報共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各担当を中心に、変化に留意しながら潜在能力を見極めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフによるモニタリングと評価、そこに本人や家族の思いを踏まえて計画を作成している。支援内容の記録についても計画に沿った形で記載するようにしている。	利用者や家族等の意見や要望と医療機関からの情報をもとに全職員で協議し、利用者の現状に即した介護計画を作成している。介護計画は家族に説明し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの実践については記録できている。より多角的な視点で得た情報を計画に反映できるようにしていきたい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々で生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々で生まれるニーズに対しての対応はもとより、利用者の家族に対して、面会の際の送迎の連絡をとる等の柔軟な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩できる季節であれば、町の商店を利用することもある。また、地域の人との協力を得た慰問も設けている。もっと本人能力の発揮できる支援を心がけたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者が希望によりかかりつけ医を本院に変更しており、必要に応じ訪問診療を受けている。院外の受診は家族対応だが、状況報告書を用い医師や家族に報告し、受診結果をノートにて全スタッフが情報共有している。	同一法人のクリニックがあり、2週間に一度の往診、必要に応じて迅速な専門医等の往診が可能であり口腔ケアも実施している。かかりつけ医での受診は家族同伴で実施している。職員には申し送りノート、家族には状況報告書で情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常時、小さな変化にも看護師への報告は行っており、助言をもらい支援に活かしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には足を運んで本人の状態を確認しつつ、医療関係者、家族からの情報収集が行えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に事業所の看取り指針を説明し、同意を得ている。主治医、看護師、家族と情報交換をしながら看取り計画を作成している。	契約時、利用者及び家族に「重度化した場合における(看取り)指針」に基づいて説明し同意を得ている。症状に変化が見られた場合は主治医、看護師、家族と情報交換し、改めて看取り計画を作成し同意を得て支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	経験がない職員に対しても、個別に指導するなどの対応が行えている。看取り等で想定できる急変に関しては、都度緊急時の対応について全職員へ周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	水や食糧の備蓄を整備し、夜間想定防災訓練や緊急連絡網訓練の実施、また、定期的に消火栓や排煙口の確認等を実施している。地域の消防団との繋がりを作るために、運営推進会議を活用し協議している。	消防署の立ち会いのもと日中想定と夜間想定防火訓練をしている。また毎月テーマを決め訓練を実施している。備蓄品リストを作成し全員分、28品目の食料品や生活用品を備蓄している。	全職員が数多く訓練に参加できるよう、消防団の設備点検日等に合わせるなど、地域との協力を得て、さらに訓練を重ねることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応や声掛け等、研修会で学んだ事を日々のケアで実践している。本人の羞恥心やプライバシーにも配慮し実践している。	プライバシー保護や個人情報保護の研修会に参加し、研修内容をまとめフロアー会議等で全職員に伝達周知を図り実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	都度、本人の意向を確認しながら選択肢を設けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	重度化しており、なかなか自らの生活スタイルを主張できていないが、心身の状態を観察しながら、本人のペースに合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類汚染時の更衣や起床時の整容等については都度対応できているものの、意向を確認しにくい方への支援としては、本人の好み、こだわりを活かしきれいていないと感じる為、対応を検討している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	出来る範囲内で食材に触れて頂き、メニューの説明や味見、食材の盛り付けや後片付けなどを一緒に行っている。	法人の調理室から届けられた料理を職員と利用者が盛り付けを行っている。ご飯とみそ汁及び小鉢料理は利用者の思いを取り入れ、キッチンでつくっている。職員は利用者寄り添い、個別対応で食事介助している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好を確認しながら本人に合わせたメニューに変更する等工夫している。また、状態の変化等による食事、水分の摂取状況に合わせた栄養補助食品の活用を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛け、誘導を行い、口腔内の清潔保持に努めている。拒否が強い方への相談も行いつつ、適宜歯科衛生士の助言も頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を用い、排泄パターンの把握や排泄の自立に向けた取り組みを行っており、失禁やおムツの使用は減っている。	「排泄チェック表」から利用者の排泄習慣を把握し、出来るだけトイレでの排泄支援を実施している。その結果オムツからリハビリパンツへ改善できた利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状況を見て、牛乳提供のコントロールを行っている。また、医師、看護師指示のもと、下剤調整を行っているが、自然排便のための運動や食事についての努力は不足していると考える。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	3種類の浴槽を備え、利用者の身体状況や好みに応じて対応している。入浴剤の活用や変わり湯等も実施し、入浴を楽しむことができるように支援している。	入浴は利用者により個浴または特殊浴槽で支援し、3日に1回程度入浴している。入浴が難しい場合は、全身の清拭も行っている。柚子やミカン等を活用した変わり湯も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々状況や個人一人ひとりの生活スタイルに合わせ、居室にて過ごす時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療関係者と相談しながら、本人希望での服薬調整や服薬拒否の方々に対して都度説明を行い、確実な内服が出来るよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や編み物、手作業や庭仕事等、得意分野に応じた役割の提供は出来ている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事業所のバスを使い全体で出掛けたり、買い物や周辺の散歩等、個別の希望に応じた外出支援も行っている。	職員が輪番制で「外出ケアの計画書」を作成し外出支援を行っている。誕生日に職員が同行して買い物をしたり、全ユニットで法人バスを利用し、遠方まで出かける事もある。すし屋での外食が利用者に喜ばれていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にグループホーム内で管理しており、個人での管理は行っていないが、外出等にて買い物する機会を設け、金銭を取り扱うなどしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話対応に対しては取り次いでいるものの、本人から連絡することは少ない。希望に応じ、自由に連絡できる体制は整っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングから外を眺め、季節を感じて頂くことも出来る他、和室部分に冬はコタツを置いたり、壁面の飾り付け等を施し、心地よい空間を造るようにしている。	広いリビングは明るく、利用者の意見を聞きながら飾ったクリスマスツリーや行事の記念写真が掲示されている。和室には炬燵が置かれ好みの生活スタイルで過ごす事が出来る。空調、採光が管理された空間で利用者はゆったり穏やかな生活を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの窓際にソファがあり、一人になりたい方がそこに座って過ごすという事が出来る様になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	自宅の部屋となるべく近似した雰囲気を作る為に、家族の協力を頂き、家具や写真等を準備して居室へ置いたり、必要に応じて和床の仕様にする事で支援をしている。	居室は利用者の好みにレイアウトされている。ベット及び和床仕様の居室は、馴染みの家具・写真等が持ち込まれベットの高さや向きも利用者の意向を取り入れ、居心地良く過ごせる環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室、キッチンシンクの高さには配慮しており、能力に応じた自立生活を支援できている。		